

▼東京タワー（昭和33年完成）



▲東京オリンピック（昭和39年）

出典：『東京オリンピック記念特撮』(朝日新聞社)

高度経済成長期ってなに？

日本では、1955（昭和30）年ごろから、経済が奇跡的に成長する景気の良い時代が、15年以上にわたって続きました。この時期のことを、「高度経済成長期」と呼びます。

この時期に、日本の産業がさかんになって、全国で家電製品が多く買い求められるなど、人々のくらしが大変豊かになりました。

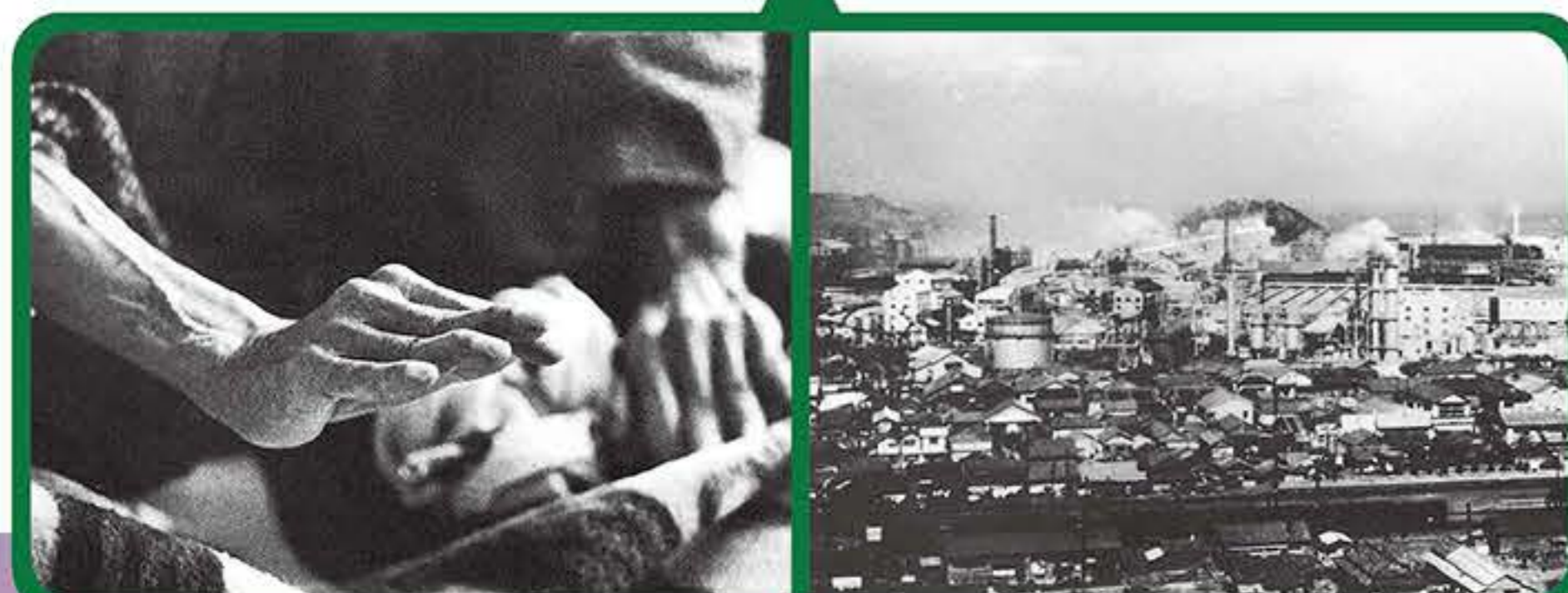


▲大阪万博（昭和45年）

出典：『大阪万博記念特撮』(朝日新聞社)

水俣病（熊本県 ※鹿児島県の一部も含む）

時期	1956（昭和31）年に熊本県が被害を確認
発生	水俣市など水俣湾近くの地域
原因	水俣市の化学工場から、海（水俣湾）に流れ出していた有機水銀
症状	手足がしびれたり感じにくくなる



▲水俣病被害者の手

出典：『アルパム戦後25年 ミニターから万博まで』(朝日新聞社)

▲水俣病を発生させた化学工場

出典：『写真集戦後100年』(朝日新聞社)

四大公害ってなに？

昭和30年代の終わりごろまで、日本では産業の発展に力を入れるあまり、環境や人々の健康はあまり大切にされなかったため、各地で公害が発生してしまいました。

その中で、特に被害が大きかったものが、「四大公害」と呼ばれました。

（昭和30年代は、昭和30年から昭和39年までの期間です。
昭和40年代は、昭和40年から昭和49年までの期間です。）



最初のヒット家電 三種の神器!

Q パネル21をチェック!

イタイイタイ病（富山県）

時期	1910年代（大正時代）ごろから
発生	神通川の下流（旧・婦中町など）で発生
原因	神通川上流にある神岡鉱山から、神通川に流れ出していたカドミウム
症状	骨がもろく、折れやすくなる



▲医者にもてもらう被害者

出典：『神岡町史』(朝日新聞社)



▲神岡鉱山

出典：『神岡町史』(朝日新聞社)

四大公害のその後

昭和40年代に入ってから、新潟水俣病の訴えをきっかけに、四大公害の裁判が次々と起こされ、公害を発生させてしまった会社の責任が厳しく追求されました。



▲裁判に勝って喜ぶ、イタイイタイ病の被害者と支援者

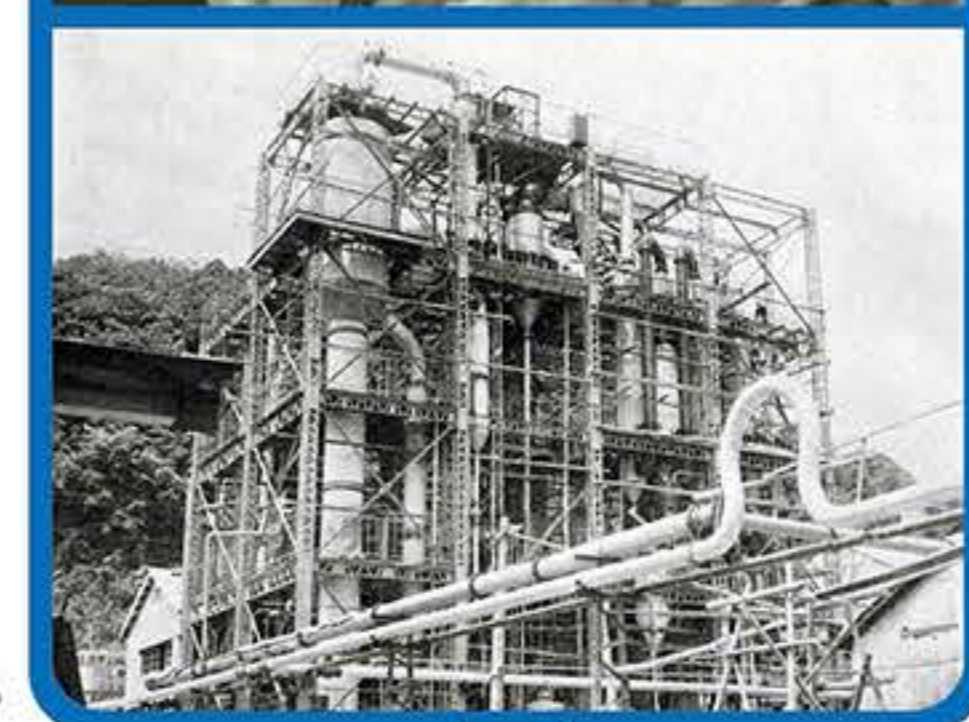
出典：『神岡町史』(朝日新聞社)

国の対応・対策

公害をくり返さないために、四大公害の裁判が進む中で、環境や人々の健康を守るさまざまな法律などが、国によってつくられました。



▼新潟水俣病の被害者



▲アセトアルデヒドを製造する施設

時期	1965（昭和40）年に新潟県が被害を確認
発生	阿賀野川が流れる地域で発生
原因	阿賀野川上流の化学工場から、阿賀野川に流れ出していた有機水銀
症状	手足がしびれたり感じにくくなる

新潟水俣病（新潟県）

四日市ぜんそく（三重県）

時期	1960（昭和35）年ごろから
発生	四日市市で発生
原因	四日市市の石油化学コンビナートから、空気に出された煙のガス
症状	はげしいぜんそく

▲公害マスクをして登校する小学生



▼煙を出す石油化学コンビナート



国の議員・役人



▲環境庁（現・環境省）のスタート

- 公害を防止する法律をつくりました。
- 大気を汚さないための法律（＝大気汚染防止法）をつくりました。
- 水を汚さないための法律（＝水質汚濁防止法）をつくりました。
- 環境庁（現・環境省）をつくりました。